



鶴見大学文学部 日本文学科

二〇二六年度総合型選抜 2期

課題集

二〇二六年度総合型選抜 2期 課題集

※課題 A・B のどちらかを選んで答えて下さい。

○解答はA4サイズの縦書き原稿用紙を使用し、手書きで記入して下さい（別に指示のある場合や原稿用紙に適さない内容の場合には別の用紙を使ってもよい）。いろいろな人のアドバイスを受けてもかまいませんが、自分自身でまとめて下さい。

○この課題では、方法を考えながら調べる力と、それをレポートする力を確かめます。それが伝わるように工夫してレポートを作成して下さい（見やすくするために、色ペンを使用する、図版・写真を用いるなどしても構いません）。

○調べるために使った資料については、レポートの最後または各小問の後に、他の人が同じ資料を手にとることができるように、書名・著者名などの書誌を記して下さい。インターネット上の情報を参考にした場合も、そのサイト名とURLを記して下さい。

○作成したレポートには用紙の右下に通し番号を振ること。また、表紙を付け、全体で何枚のレポートであるのかを表紙に明記して下さい。

○課題作成のために、本学図書館を利用することができます。
開館日を本学図書館ホームページの「カレンダー」を確かめて出かけ、メインカウンターに申し出て下さい（入口にゲートがありますが、脇のチャイムを押せば入館できます）。

※解答の提出

○課題に対する解答は、他の出願書類（入学志願票・調査書および入学検定料）とともに、出願期間を確かめて提出して下さい。必ずコピーを取って手元に残し、面接当日、忘れずに持参して下さい。

面接では、このレポートをもとにプレゼンテーションをしてもらいます。

A 古典に関する問題

□ 次の文章を読んで設問に答えなさい。

心もとなき日かず、重なるままに、白河の関にかかりて、旅心、定まりぬ。a「いかで都へ」とたより求めしも、ことわりなり。なかにも、この関は三関の一にして、風騷の人、心をとどむ。b秋風を耳に残し、cもみちを面影にして、青葉の梢、なほあはれなり。d卯の花の白妙に、茨の花の咲きそひて、雪にもこゆる心地ぞする。A古人、冠を正し、衣装を改めしことなど、清輔の筆にもとどめおかれしとぞ。

卯の花をかざしに関の晴れ着かな 曾良^{そら}

(1) 右の文章は松尾芭蕉の『おくのほそ道』の一節です。

① 松尾芭蕉はどのような人生を送ったのか、八〇〇字以内で説明しなさい。

② 『おくのほそ道』はどのような作品なのか、八〇〇字以内で説明しなさい。

(2) 右の文章を現代語訳しなさい。

(3) ——線部 a～d には白河の関にちなんだ有名な和歌が踏まえられています。

① ——線部 a～d に踏まえられた和歌をそれぞれ調べて書きなさい（複数の候補がある場合すべて書くこと）。

② 芭蕉が——線部 a～d の和歌を引用した意図を考え、それぞれ簡潔に説明しなさい。

(4) ——線部 A の逸話は、平安時代後期の歌人である藤原清輔^{きよすけ}の著作に記されていると、芭蕉は述べています。

① 該当する藤原清輔の著作を調べ、該当する逸話の原文を書き写しなさい。

② ①の原文を現代語訳しなさい。

③ 芭蕉がこの逸話を引用した意図を考え、簡潔に説明しなさい。

④ 曾良の句の、この逸話の踏まえ方を簡潔に説明しなさい。

【二】『おくのほそ道』では、【一】の場面以外にもさまざまな場面で、有名な古典文学（もしくはそれに関連する地名や人名）が引用されたり、利用されたりしています。

（1）『おくのほそ道』全体の中からそうした場面を探し、原文と現代語訳を書きなさい。

（2）（1）の場面で、芭蕉が踏まえた古典文学の原文と現代語訳を書きなさい（【一】のように、本文にa b cの記号を付け、対応関係を明示すること）。

* 古典文学に関連する地名や人名などの場合は、それらが古典文学とどう関わるのか書きなさい。

（3）芭蕉が（1）の場面で、（2）の古典文学（もしくはそれに関連する地名や人名など）を引用・利用した意図を考え、それぞれ簡潔に説明しなさい。

※（1）～（3）と同じ作業をほかに二つ以上の場面で言い、取り上げる場面が合計三つ以上になるようにしてください。

【一と二の注意点】

現代語訳をするときは難しい言葉を辞典で調べたり、複数の注釈書を見比べたりして、自分なりの現代語訳を作り、特に工夫した部分には傍線を引いてください。

【参考文献】

『おくのほそ道』の原文は次のような書籍で読めます（主なもののみを掲載）。あくまでも一例ですので、これ以外の書籍を用いても構いません。

・ 頼原退蔵ほか『新版おくのほそ道 附現代語訳・曾良随行日記』（角川ソフィア文庫）、二〇〇三年

・ 井本農一ほか『松尾芭蕉集②』（新編日本古典文学全集71）小学館、一九九七年

・ 久富哲雄『おくのほそ道 全訳注』（講談社学術文庫）講談社、一九八〇年

・ 萩原恭男『おくのほそ道 付 曾良旅日記 奥細道菅菰抄』（岩波文庫 黄 206-2）岩波書店、一九七九年

・ 富山奏『芭蕉文集』（新潮日本古典集成17）新潮社、一九七八年

・ 井本農一ほか『松尾芭蕉集』（日本古典文学全集41）小学館、一九七二年

・ 杉浦正一郎ほか『芭蕉文集』（日本古典文学大系46）岩波書店、一九五九年

【調べ方のヒント】

参考文献に挙げた書籍には、文中の言葉に短い注がついています。その注を頼りに、さらに辞典を引いてより深く調べたり、芭蕉が引用した原文を探したりすることができますので、活用してください。

以上

B 近現代文学に関する問題

全国には、近現代に活躍した文学者の資料を収集・展示する文学館や図書館が多数あります。任意の施設に出向き、次の要領に従って、レポートを作成してください。

一、その施設の主な所蔵資料、これまでの活動（展覧会の開催、資料の活用など）を簡潔にまとめなさい。

二、見学時の展示内容を、資料名などを含め具体的に記述しなさい。

三、二に記した資料の中、特に興味をもったものを三点挙げ、それぞれどのようなものか説明しなさい。

四、二で挙げた資料の文学者を一名取り上げ、経歴の特色、作風、代表作などをまとめなさい。

五、四で取り上げた文学者の作品を一つ読み、考えたことなどを自分の言葉で記述しなさい。

六、施設見学の体験、感想などをまとめなさい。

* 以上のレポートに、図版、写真などを加えてもかまいません。